

9. 主婦の疲労について (第7報)

沿岸漁家の冬期の状態

姫路短大 末政 清子

香川 敦子

安野 礼

1. 生産部門での労働に関しては、その疲労が多くの角度からとりあげられ、測定され、対策がたてられている。主婦の労働についてはその形態が種々雑多であるためか、あまり研究の対象とされていない。しかも、農業人口、漁業人口から考えるならば、多くの主婦は、農業漁業などの生産労働と、家事労働の二重の負担をおっている。その負担の度合を種々な生活形態においてつかみたいとする一連の測定のうち、漁家の冬期の場合である。

2. 従来通り、兵庫労研式フリッカー測定機による。

3. 前回発表の明石浦漁家については、夏の盛漁期に比べて、非常に軽い負担で、第1報における農家の農閑期と同じ傾向がみられ、生活時間の内容からも、裏づけられた。他の対象としたノリ養殖業の場合は、同じ冬季でも、潮の時間によって明け方から、ノリ採集、すぐにあらう、ミンチにかける、すく、という作業におわれ明石浦とは対称的にフリッカー値の低下も大きくあらわれた。